



2020年度 第2回 国際理解映画上映会

リベリアの白い血

開催レポート

©2017 ニコニコフィルム

2021年2月28日(日)イーグレひめじ3階あいめっせホールにて、2回目となる国際理解映画上映会「リベリアの白い血」を開催し、88名が参加しました。この映画は、西アフリカのリベリアとアメリカ・ニューヨークを舞台にした移民の物語で、日本人監督による作品です。



～ あらすじ ～

主人公シスコは、ゴム農園での過酷な労働で家族を養っていた。より良い生活を求め、愛する家族を残し、単身ニューヨークに渡る。

しかし、移民としての生活には厳しい現実が待っていた。さらに、元兵士との思わぬ再会によって内戦で負った心の傷に苦しむことになる…

上映の前に、リベリアの基本情報を紹介しました。リベリアは正式には「リベリア共和国」といい、1800年代にアメリカで解放された黒人奴隸によって建国された国で、“リベリア”はラテン語で“自由”という言葉から来ています。1980年代からの断続的な内戦により荒廃し、現在も治安の悪化と貧困が問題となっています。

観客のみなさんからは、「平和が何より大切だ」「すごく考えさせられる内容だった」「シスコには幸せになってほしい」などの感想が寄せられました。

「遠い国のことだから、自分には関係ない」ではなく、「自分に何ができるか」と考え、行動するきっかけになればと思います。

